SHARE THE GIFT FROM THE SUN !!

MIN×ENE

produced by 市民エネルギーちば株式会社

みんエネ

SOLAR SHARING COMPANY

エネルギー、農業、大地の再生、地域再生

環境への取り組みは「新しいステージ」へ

RENEWABLE ENERGY / SOLAR SHARING

ETHICAL AND ECHOLOGICAL ACTION

ソーラーシェアリングの先駆者として

明日のエネルギー、食と農業、地域振興……複雑に絡み合う多様な課題の解決に向けて、ソーラーシェアリングはいま大きな注目を集めています。匝瑳（そうさ）から日本各地へ、そして世界へ。私たちは、これからもソーラーシェアリングの可能性を拓き続けます。

東日本大震災、そして長島彬さんとの出会い

私たちの取り組みは、ソーラーシェアリングの考案者である長島彬さんとの出会いから始まりました。東日本大震災による原発事故を受け、エネルギーの在り方が問われているときでした。

原発に代わる電源として、太陽光発電が日本に不可欠なものとなることは分かっていました。しかし当時、事業として太陽光発電を行うには、実質的には野立てしか方法がありませんでした。ただ、野山を切り崩し、土地のかたちを変えてしまう野立て太陽光発電設備には、環境負荷が伴います。そのため私たちは、単純にこれを推進することはできませんでした。

環境負荷のない太陽光発電はあり得ないのか——それを模索しているときに知ったのが、長島さんの提唱するソーラーシェアリングだったのです。長島式ソーラーシェアリングは、けっして土地を痛めません。千葉県市原市にある長島さんの実証実験場を初めて訪ねたとき、太陽光パネルの下で農作物が健やかに育っている姿に驚かされたのを覚えています。環境に負荷を与えないばかりでなく、農業にとっても有効なシステムであると直感しました。その頃は、まだ導入事例はほとんどありませんでしたが、ソーラーシェアリングこそ進めるべき太陽光発電のかたちだと考え、私たちは動き始めました。

「匝瑳メガソーラーシェアリング第一発電所」全景

ソーラーシェアリングはいまや全国に2000ヵ所以上、北海道から沖縄まで日本各地に広がっています。国の方針も、これを後押しするものに変わり、さらなる導入拡大に期待が高まっています。一方で、長島さんの理念に反して、大型のパネルを使い、農業を軽視して遮光率がとても高いなど『シェア＝分かち合い』の精神を置き去りにした名ばかりのソーラーシェアリングが横行してきているのも事実です。ソーラーシェアリングは、その在り様が問題となる段階に入ってきたとも言えるでしょう。

エネルギーの観点、農業の観点、地域振興の観点、ソーラーシェアリングの可能性はいま多方面から関心を集めています。だからこそ私たちは、先駆者の責務として、ソーラーシェアリングの正しい在り様を示していかなければならないと考えます。理想のソーラーシェアリングを求めて——私たちは歩み続けます。

耕作放棄地が豊かな農地に蘇った

2019年度も「匝瑳メガソーラーシェアリング第一発電所」で収穫祭を開催しました。農業関係者やソーラーシェアリング関係者はもちろん、近隣のファミリー層も多数訪れ、前年にも増してにぎやかな一日となりました。ここは、2017年3月に完成した設備容量（AC）1MWの大規模ソーラーシェアリング発電

所。いまでは、すっかり地域に溶け込み、人々をここ匝瑳市に呼び込む名物施設となっています。

この発電所は、農地を守って発電するというソーラーシェアリングの特性を一歩進めて、耕作放棄地を農地として蘇らせた先駆的事例としても知られています。この土地では、かつてタバコ栽培などが行われていましたが、15年以上前に耕作が放棄され、以来ずっと荒れ地になっていたのです。ここ以外にも匝瑳市には耕作放棄地が少なくなく、その解消は長年の地域課題でもありました。

営農を支え、地域課題を解決

耕作放棄地が拡大してしまうのは、採算性が悪くて、農業を続けたくても続けられない農家さんが多いからです。でも、ソーラーシェアリングによる売電で、安定収入を得ることができれば状況は変わります。農業の継続が可能となるばかりか、耕作が放棄されていた土地で再び農業を始める途も開けてきます。土地を再生させることができれば、地域は必ず良くなります。

現在、匝瑳市飯塚地域には、匝瑳メガソーラーシェアリング第一発電所のほかにも、私たちの関わるソーラーシェアリングが19ヵ所あり、合計設備容量（AC）は2,156kW（2020/3月時点）に達しています。農家収入の安定にも寄与し、いまでは地域社会になくなてならない存在として認知されるに至っています。私たちは、これからも多様な成功事例をこの地で確立し、日本全国に、そして世界に広めていきたいと考えています。

毎年秋に開催される収穫祭。和太鼓、餅つき、お神輿、ライブトーク……旬の味覚を楽しみながら、皆で喜びを分かちあう。「美味しいソーラーシェアリング」を合言葉に、未来をひらく人々が、ほっこりつながる交流の祭り

売電収益を基金に「村つくり協議会」を設立

2018年3月に、ソーラーシェアリングの売電収益を基金とする「豊和村つくり協議会」を立ち上げました。地域内の発電事業者が協賛金を出し合い、これを基金として、地域課題の解決に取り組んでいこうというものです。協議会のメンバーには、自治会や地元環境保全会、農業法人、小学校のPTA、環境NPOなど幅広い顔ぶれが並びます。協議会の名称にある「豊和」とは、匝瑳市飯塚地域と近隣地域を含むかつての村名です。この協議会名には、ソーラーシェアリングという新しいツールを活かして、自分たちの力でコミュニティを再生していこうという強い想いが込められています。

豊和村つくり協議会の事務局は、代々続く農家で、この地にソーラーシェアリングを根付かせた立役者でもある弊社取締役の椿茂雄が務めています。私たちは、ソーラーシェアリングによって、耕作放棄地という地域課題を解決することに先鞭をつけました。豊和村つくり協議会の創設は、その延長線上にあります。地域の人々とともに、より幅広い課題解決のために——豊和村つくり協議会では、環境保全や新規営農支援、子供たちの教育支援など、多岐にわたる取り組みを進めています。

人が集い、活力あるコミュニティが生まれる

弊社としても、豊和村つくり協議会や関連団体と連携して、コミュニティ再生に向けたアプローチを強化しています。その一環として実施したのが、例えば、小屋づくりワークショップです。田舎暮らしや農業に関心をもつ都会からの参加者が、地元の方々の協力のもと、宿泊施設となる小屋を自分たちで作りました。この地域で約10年、レンタル農地「My田んぼ」という試みを続けてきたNPO匝瑳プロジェクトとの連携によるものです。

同NPOでは、以前より都会からの移住支援を行っていますが、移住者にとって、ここで仕事を見つけるのは容易なことではなかったと言います。そんな状況にあって、ソーラーシェアリングは新たな雇用を生み出し、今日では移住者の受け皿としても機能し始めています。昔からの地元住民と都会からの

匝瑳メガソーラーシェアリング第一発電所。／設備容量（AC）：1MW、土地面積：約32,000m²、導入年月日：2017年3月、導入費用：約3億円

市民エネルギーちば代表の東光弘（右）、市民エネルギーちば共同代表・豊和村つくり協議会事務局の椿茂雄（中央）、Three little birds共同代表の齊藤超（左）

（右ページ上）小屋作りワークショップで作り上げた宿泊施設。内部には、地元の木材がふんだんに使われている
（右ページ中）My田んぼで週末農業を楽しむSOSA Projectの面々。この地の魅力に惹かれて移り住んできた人も少なくない
（右ページ下）ソーラーシェアリングの大豆で作った味噌を仲間と分かち合う、匝瑳プロジェクト理事・Re代表の高坂勝

移住者が協調して、活力に満ちた新しいコミュニティが生まれようとしているのです。2018年10月には、農村民泊などを手掛けるグループ会社、株式会社「Re」も立ち上げました。

有機農業にこだわりつつ、6次産業化を推進

ソーラーシェアリングで作った農作物の販売に関しても、グループ会社とともに、新しい試みを始めています。地域の施設とも協力し、お菓子や飲料などの加工品を作り、オリジナルブランドとして販売する6次産業化もその一つです。

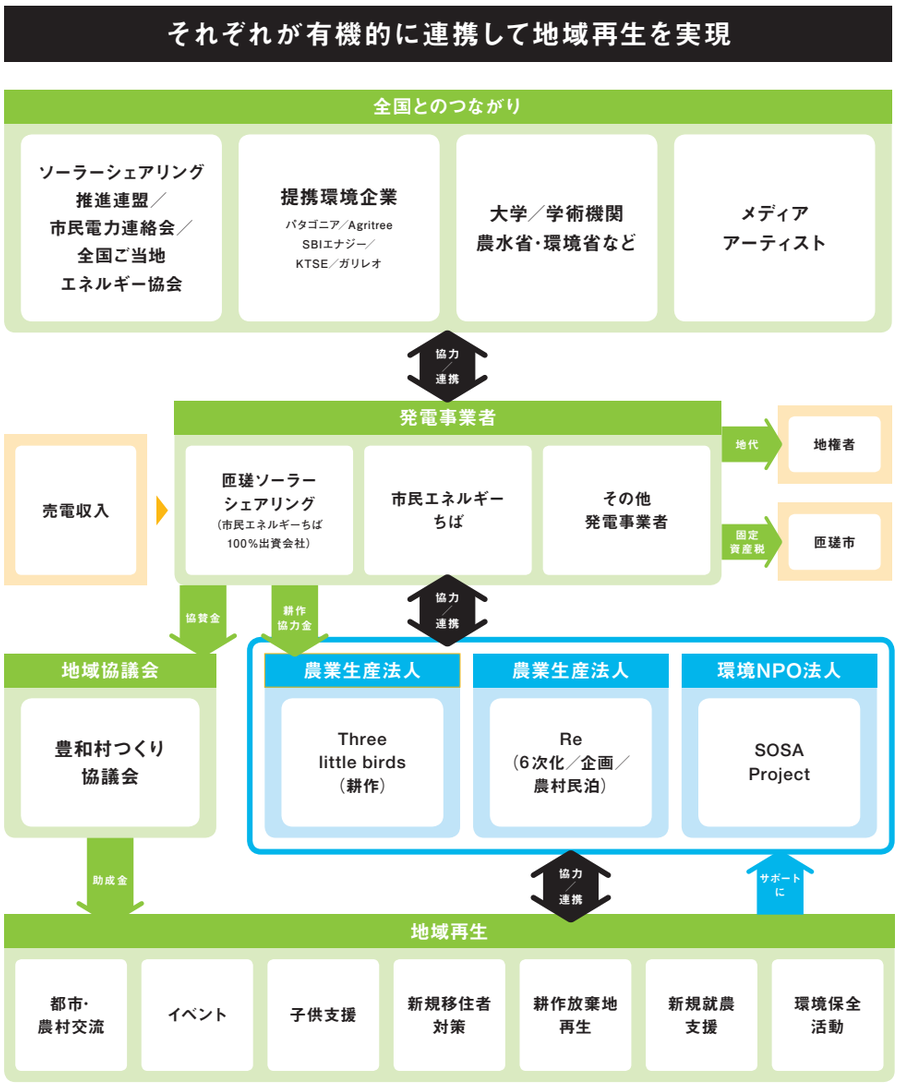
太陽光パネル下での営農を請け負うグループ会社、Three little birds合同会社の齊藤超共同代表は話しています。「去年収穫して仕込んでいた大豆が、この秋、味噌になりました。千葉県内の福祉事務所と一緒に、クッキーやお茶などの商品開発も行っています。また、小規模な豆腐屋さんやパン屋さんにも働きかけて、ソーラーシェアリングでできた食品を広めたいと思っています」。

Three little birdsは、有機農業にこだわる若手農家が中心となって設立した農業生産法人です。「ソーラーシェアリングで有機農業をしていれば、化石燃料が枯渇しようが、海外から食料が来なくなろうが心配ありません。そこには電気もあるし、安全な食べ物もあります。そんな安心できる地域づくりに貢献したい」と齊藤さん。齊藤さんの想いは、私たち市民エネルギーちば全員の気持ちでもあります。

視察者1500人、理想のソーラーシェアリングを広めたい

私たちのもとには、年間1500人以上の視察者・見学者が訪れます。国内はもちろん、アジア各国、欧米、アフリカ、中南米からも関心を寄せられています。私たちが伝えたいのは、ソーラーシェアリングを使えば農地を活かし、眠っていた地域資源の価値を高め、その価値を皆でシェアする仕組みを作っていくことが可能であるということ。ここでの取り組みをオープンソース化して各地に広めていくことで、「地域」「農業」「生態系」などにも配慮した理想のソーラーシェアリング＝環境調和型・再生可能エネルギーの流れを加速していきたいと願っています。その先には——人と自然が響き合う、美しく心豊かな暮らしが、きっとあるはずです。

売電収益は不法投棄地の整備にも活かされた



環境を判断基準に、地球の未来を考える

私たちの取り組みは、すべてが“環境”とつながっています。ソーラーシェアリングの意義は、農業と発電事業を両立させ、地域社会に貢献し得るだけではありません。化石燃料から太陽光にシフトすることで発電に伴うCO_2が削減され、同時に、農作物による光合成によってCO_2が減っていきます。気候変動という地球規模での環境問題を考えても、ソーラーシェアリングはもっとも理に適ったシステムなのです。

環境こそが、私たちの判断基準です。だから私たちは、敷地内をコンクリートで固めたり、除草剤を撒いてしまうような、土が呼吸できなくなる太陽光発電には携わりません。また、山の斜面や稜線を壊すような太陽光発電所は、けっしてつくりません。ソーラーシェアリングを行うにしても、幅の狭い太陽光パネルを並べる“長島式”にこだわっているのは、それがいちばん農作物にやさしいかたちだからです。細形パネルなら、農作物にあたる光が均等になるとともに、雨だれの影響も抑えられます。

パネルの下で行う農業は、有機農法に徹しています。それは

DEEP ECOLOGY

みどりの想いを みどりのカタチに

いちばん大切なのは、環境への想い。ソーラーシェアリングは、エコロジーを深化させます。
それは人と大地をつなぎ、農村と都市をつなぎ、今日と未来をつなぐ大いなるツールです。
いま、ソーラーシェアリングの新たなる地平へ――私たちは歩み続けます。

人にやさしいばかりでなく、微生物との共生を可能にし、生態系を守り、育むことにもつながっているからです。

不耕起栽培によって、土壌本来の力を活かす

私たちはいま、福島大学の金子信博教授（食農学類）とともに、“不耕起栽培”の取り組みも進めています。不耕起栽培とは、文字通り“耕さない農業”であり、環境保全型農業のさらに先を行くものです。

「耕さないと土が固くなるのでは」と懸念する人もいますが、必ずしもそうではありません。むしろ耕して雑草を取ることで、土壌微生物やミミズなどの土壌生物が減り、かえって土が固くなってしまうのです。不耕起や部分耕起・省耕起を、栽培植物に応じて組み合わせることで、根と微生物・土壌生物の働きにより、土は柔らかくなっていきます。土壌の生物多様性が保たれることで、土の機能が高まり、質の良い農作物をつくることが可能になるのです。

それは、自然の仕組みを活かした土壌管理であり、環境負荷を減らすことに直結します。しかも、耕す手間が省けるので、営農コストの削減にも貢献します。

「TOKYO OASIS」ソーラーシェアリングを都市部にも

太陽の恵みを分かち合うというソーラーシェアリングの発想は、農村だけにとどまらず、都市の緑化にも活かされようとしています。私たちは、このプロジェクトを「TOKYO OASIS（トウキョウ・オアシス）」と名付けました。これまで農業地域に設置されていたソーラーシェアリングを都市部で展開することにより、CO2削減はもちろん、都市部の課題解決と新たな付加価値創出を図っていこうとするものです。

当面は、屋上緑化を切り口に展開していきますが、防災や地域コミュニティの拠点となる公園や公民館・学校などへも導入を進めていきたいと考えています。そこで生まれる電力を自家消費に回せば、電力会社から購入する電力量が減り、ZEH・ZEB（※）施策としても効果的。都市部でのエネルギー地産地消を後押しします。架台に間伐材を用いて木のぬくもりを伝えていくなど、堅牢性だけでなく、デザイン性も兼ね備えた都市型ソーラーシェアリングを目指します。

採れた作物は近隣の飲食店で使ってもらうほか、収穫体験プログラムや料理教室を企画して、子供たちの食育・農育に役立てることも可能です。地方のソーラーシェアリングと連携して、お互いの発電所に招待しあうなど、非日常の体験を提供するイベントを開催することもできるでしょう。農村と都市のヒト・モノ・コトが有機的につながり、環境への意識を共有する——ソーラーシェアリングには、それを実現するポテンシャルが満ちています。

市民エネルギーちば
代表取締役　東 光弘

日本初の市民出資型ソーラーシェアリング「匝瑳第一市民発電所」。2014年に運転を開始した、市民エネルギーちばの第1号機。市民出資によるパネルオーナー制を導入し、誰でも参加できるようにした

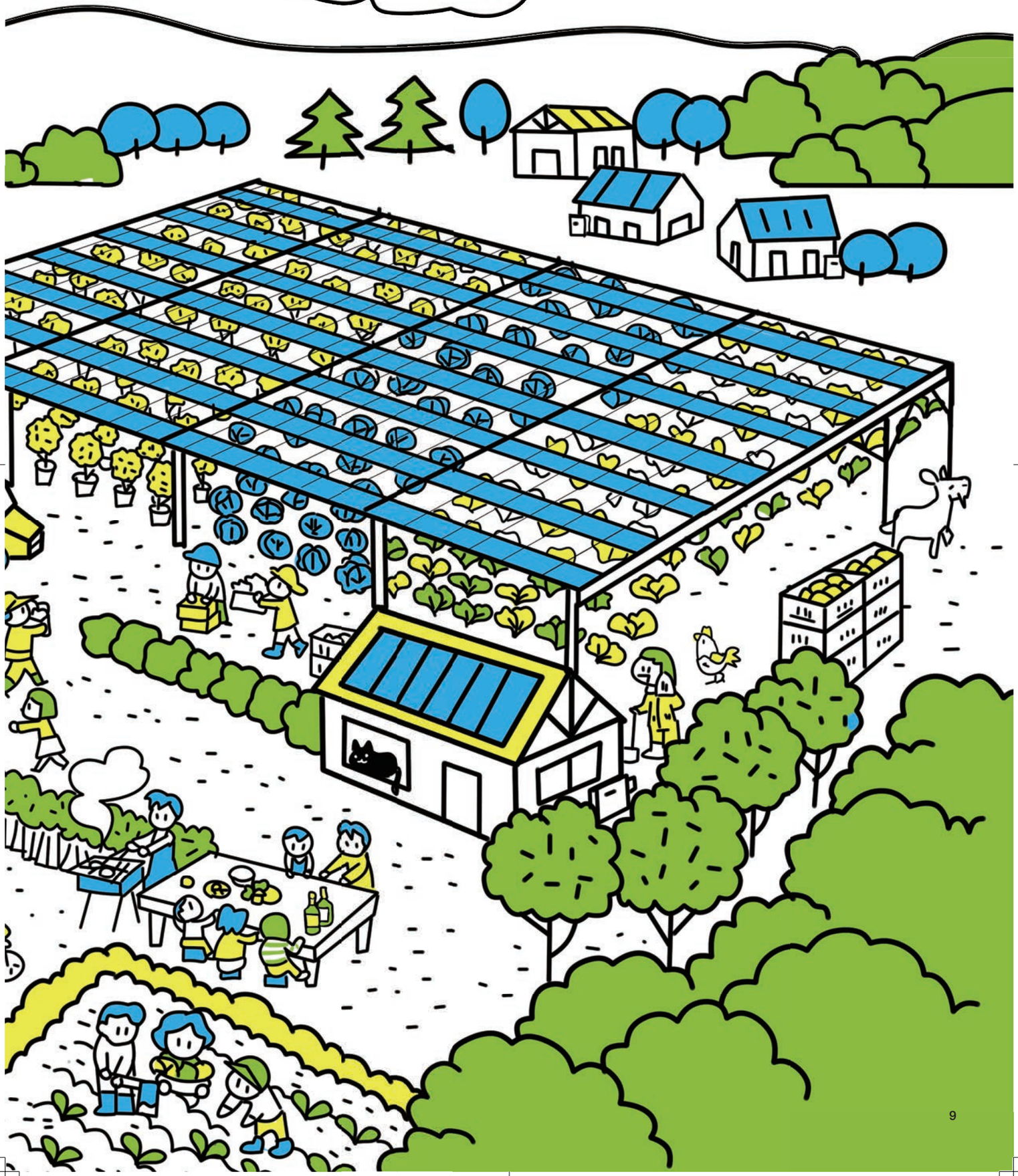
※ZEH・ZEB……それぞれZero Energy House、Zero Energy Bildingの略。創エネと省エネなどを組み合わせることで、建物で消費する化石燃料由来のエネルギーをゼロにする取り組み、およびそれを実現した住宅、建物のこと

MIRAI NO

ソーラーシェアリングの郷

食を育み、電気をつくり、人々の笑顔が集うコミュニティー。
いまこの地では、ソーラーシェアリングを中心に、さらに楽しい取り組みが始まろうとしています。
農作業体験、市民農園、農村民泊、ファームカフェ、ファーマーズマーケットなど、交流の場はいっそう広がります。
いつか訪れたい場所、そしてまた還りたくなる場所――ここは“ソーラーシェアリングの郷”です。

MURA



PARTNERSHIP

多くの人々と“想い”を共有できるのも、ソーラーシェアリングの大きな魅力。
グループ企業、提携企業、全国の仲間たちともに、持続可能な環境調和型社会の実現を目指します。

GROUP

Three little birds合同会社

太陽光パネルの下で大豆や小麦などを栽培する、ソーラーシェアリング事業の営農部門を担当する農業生産法人。匝瑳市内で有機農業を取り組んできた若手農家が中心となって設立した。後継者不足で担い手がいなくなってしまった農地でも、Three little birdsに営農を委託することで、ソーラーシェアリングを行うことができる。

同社は今年度、持続可能な農業の確立を目指して意欲的に経営や技術の改善などに取り組む農業者を表彰する「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」で、関東農政局長賞を受賞した。

匝瑳ソーラーシェアリング合同会社

「匝瑳メガソーラーシェアリング第一発電所」の運営を担う、市民エネルギーちばの100%子会社。城南信用金庫からの融資とSBIエナジーによる社債引き受けなどにより当初事業資金3億円を調達し、2017年に当時としては日本最大規模となる同発電所を建設した。同発電所は、耕作放棄地の農地再生を実現した先駆的な事例として、国内外の注目を集めている。

株式会社Re

市民エネルギーちばとともに、匝瑳市で地域振興のための幅広い取り組みを行っている。ソーラーシェアリング作物を使った加工品の開発・販売、古民家再生やエコツアーの企画・運営など、事業内容は多岐にわたる。暮らしを、遊びを、働くを、その先の世の中を——希望を据えた未来に向けて、Re Life／Re Work／Re Society へと導いていくことを目指している。

ASSOCIATION

ソーラーシェアリング推進連盟

ソーラーシェアリング発案者である長島彬氏を最高顧問に迎え、日本各地のソーラーシェアリング関係者が集結して生まれた非営利団体。ソーラーシェアリングの「普及啓発」「政策提言」「ネットワーク構築」を目指している。市民エネルギーちばの椿茂雄が理事、東光弘が幹事として連盟設立に参画した。

COLLABORATION

パタゴニア・インターナショナル・インク日本支社

アウトドア衣料品のグロバル企業、パタゴニア（本社：米国）。同社は環境問題への積極的なコミットでも知られ、2020年までにオフィスや店舗で使用する量の電力を100%再生可能エネルギーで賄い、2025年までに事業全体でカーボン・ニュートラルを達成することを目指している。

パタゴニア・インターナショナル・インク日本支社は、2019年4月9日より、国内最大規模の直営店であるパタゴニア渋谷ストア（東京）の使用電力を再生可能エネルギーに切り替えた。パタゴニアが参加し、市民エネルギーちばが運営する匝瑳市のソーラーシェアリングで発電された電力は、みんな電力のブロックチェーン技術を使って渋谷ストアに運ばれ、年間電力使用量の多くを賄っている。市民エネルギーちばとパタゴニア・インターナショナル・インク日本支社は、今後も協力して、再生可能エネルギーの利用拡大を進めていく。

株式会社アグリツリー

「持続可能な食とエネルギーを創り続けていく」をコンセプトに、ソーラーシェアリング、農業経営のサポート、自然エネルギーを活用したエネルギーマネジメントを手掛けている。福岡県那珂川市に本社を置き、ハウステンボス（長崎県のテーマパーク）園内での自家消費型ソーラーシェアリングをサポートするなど多様な実績をもつ。市民エネルギーちばはアグリツリーと連携して、日本各地に健全なソーラーシェアリグを普及させるべく努めている。

代表取締役　西　光司さん

INNOVATION

理想のソーラーシェアリングを実現するために、私たちは技術開発にも力を注いでいます。
すべての基本にあるのは、農作物にやさしい長島式ソーラーシェアリングです。

すべての原点はここにある

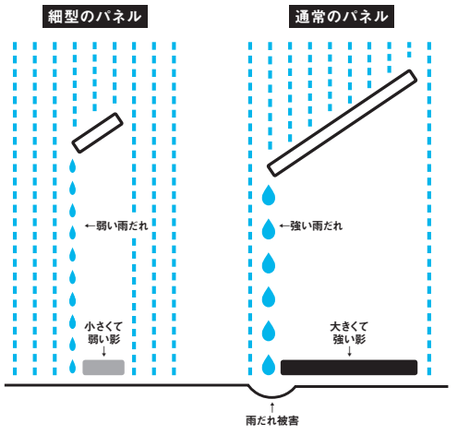
■長島式ソーラーシェアリング

市民エネルギーちばでは、ソーラーシェアリグの発案者・長島彬さんが提唱する「細形パネル＆遮光率35％以下」を、すべての基本と位置づけている。野立ての太陽光発電所で一般的に用いられる6列セルのパネルではなく、2列セルの細身（35㎝以内）のパネルが標準となる。

細身のパネルにすれば、農地に大きな影ができるのを抑え、均等に光を当てることが可能。また、雨が降っても、6列セルのように強い雨だれが生じることもない。大きい面積で雨を受ける6列セルの場合だと、どうしても雨だれも強くなり、下の土がえぐられ、農作物に悪影響を与えてしまうのだ。一方、2列セルの細形パネルなら、それぞれのパネルが受ける雨量が少ないので、雨だれの強さは抑えられる。さらに、風による影響も少なくなるので、安全性の高いソーラーシェアリグシステムを構築することができる。

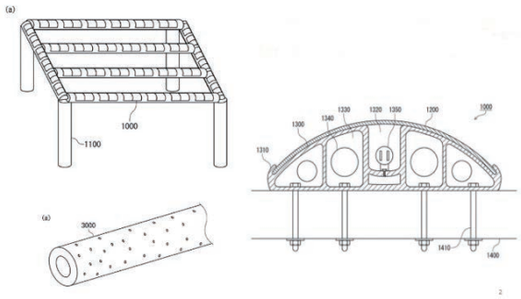
ソーラーシェアリング発案者　長島彬さん
2004年にソーラーシェアリングの特許を出願し、誰でも無償でこの技術を使えるよう2005年に公開した。CHO技術研究所代表／ソーラーシェアリングを推進する会会長／ソーラーシェアリング推進連盟最高顧問

〈細形パネルなら雨だれによる影響も少ない〉



■かまぼこ型ソーラー（特許取得済）

上部を曲面にした「かまぼこ型」の架台一体型パネルを独自開発。風を曲面で受け流すので、耐風性能が飛躍的に向上する。従来型のパネルのように東西に渡して南向きに設置するのではなく、南北に設置することで、朝から夕方までまんべんなく光を受けることができる。パネルの角度調整をする必要がなく、設置が容易な点も大きな魅力となっている。



■両面受光細形パネル（世界初運用）

両面受光タイプの細形パネルを採用したソーラーシェアリング発電所（AC49.5kW）を、2019年、匝瑳市内に世界で初めて建設した。現在、その性能検証を行っている。ソーラーシェアリングにおいては、農地の形に合わせてパネルを設置する場合が多く、必ずしも発電量が最大になる向きに設置できるとは限らない。そのため、朝夕の横からの光を裏面受光できるメリットは大きい。また、パネルの下に作物が育てば、葉からの散乱光まで無駄なく発電に活かすことができる。両面受光パネルなら、狭い農地でも、高効率な発電システムを構築することが可能となる。

PICK UP NEWS

「SOLAR JOURNAL」web版
2019年11月掲載
取材・文／廣町公則
（現状に合わせて一分加筆修正）

そのとき私たちは、何を考え、行動したのか

市民エネルギーちば共同代表の椿茂雄氏

台風停電に救い。太陽光発電所が充電ステーションに!

非常用電源になる太陽光発電

2019年秋、強大な台風が猛威を振るい、千葉県を中心に東日本各地に甚大な被害をもたらした。なかでも多くの人々を悩ませたのが、復旧の目途さえ立たない、長期にわたる大規模停電だった。

こうした状況にあって、改めて注目を集めたのが、非常用電源としての太陽光発電の存在だ。自宅の屋根に太陽光パネルを設置している家庭では、パワーコンディショナの自立運転機能により、地域が停電していても電気を使うことができた。太陽光発電協会が台風15号について行った調査では、住宅用太陽光発電ユーザーの約8割が、停電時に発電設備を有効活用できたと答えている（※）。

通常は全量売電している事業用太陽光発電所であっても、自立運転機能付きのパワーコンディショナを備えていれば、発電した電気をその場で使用することができる。住宅用と違ってパワコンの台数が多いので、万一の場合には、多くの地域住民に電気を供給する“充電ステーション”とすることも可能だ。

“電気の炊き出し”で被災者支援

台風15号による停電に際し、いち早くこれを実践したのが、千葉県匝瑳市でソーラーシェアリング（営農型太陽光発電）に取り組む市民エネルギーちば株式会社。停電が長引きそうだとの情報を受けて、停電の翌日には、自社「第一発電所」の前に充電ステーションを立ち上げた。発電所に設置された5台のパワーコンディショナから直接電気を取り出し、誰でも無料で、携帯電話やスマートフォン、ノートPCなどの充電を行えるようにしたのだ。

無料充電ステーションは、停電が復旧するまでの6日間開設された。近隣の人々のべ150人ほどが訪れ、充電難民となる危機を救われた。利用者からは「匝瑳市役所にも充電所があったが、いつも行列ができていたので、ここですぐに充電できたのはありがたかった」「充電をしている間、同じ境遇にいる人たちと愚痴を言い合うことで気晴らしができた」など感謝の言葉が寄せられたという。「ここで充電できるとは知らなかった。友達にも教えてやりたい」という声もあり、実際、知人に聞いてやってきたという人は少なくなかった。この充電ステーションは、さながら“電気の炊き出し”とでも呼ぶべきものだったのかもしれない。

市民エネルギーちば共同代表の椿茂雄氏は「私たちの設備は大きな被害をまぬがれ、発電し続けていたので、地域のために役立てたかった」として、次のように話す。「太陽光発電所は防災拠点にもなり得るものです。停電が起きたら地域に開放したい、という想いは会社設立当初からありました。今回、少しでも貢献できたなら嬉しいのですが、同時に多くの課題を発見することにもなりました」

地域との共生を目指して

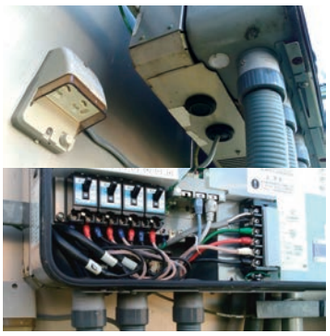
椿氏のいう課題とは、まず、すべての自社発電設備を自立運転可能なシステムにしていくことだ。全量売電を前提とする従来の事業用太陽光発電においては、余剰売電が基本の住宅用とは異なり、自立運転機能付きパワーコンディショナは必ずしも一般的ではない。そのため、停電時に地域に直接電気を供給したいと考えても、機械的に不可能な場合が少なくないのだ。市民エネルギーちばでは、同社が運営する全発電所で、自立運転機能の強化を目指していく。

また、「人的リソースをはじめ、災害時の体制づくりも急務」だと椿氏は語る。平時から地域との連携を密にし、いざという時には一丸となって取り組める仕組みをつくっておくことが大切だという。市民エネルギーちばでは、昨年3月、売電収益を基金とする「村づくり協議会」を立ち上げ、地元の人々とともに地域課題の解決に取り組んでいる。今回の経験を踏まえ、今後いっそうの拡充を図っていく考えだ。市との災害時非常用電源の協定化も進んでいる。

地球温暖化の影響もあり、台風や暴風雨が激甚化し、それに伴う大規模停電も珍しくなくなった。非常用電源、防災拠点としての太陽光発電所の存在意義は高まるばかりだ。しかし、その真価を発揮させるためには、地域との共生が不可欠だともいえるだろう。市民エネルギーちばの試みから、学ぶべきものは多い。

無料充電ステーションが設置された太陽光発電所

人々の笑顔が集う、無料充電ステーション


太陽光発電所のパワーコンディショナに設置された非常用電源取り出し口

※災害時（台風15号）における太陽光発電の自立運転についての実態調査結果。
停電の規模が大きかった千葉県において2019年9月20日～10月10日にヒアリング調査（ヒアリング件数：486件）

パネルオーナー制度のご案内

土を耕す。
未来を耕す。

～プロジェクトリーダーからのごあいさつ～

一人ひとりの小さな力をつなぎ合わせ、自然エネルギーの活用で地球温暖化を防ぎ、
「脱原発」社会をつくりたい。農業を再生して地域社会を守りたい。
そうした思いから、「ソーラーシェアリング」の市民発電所をつくろうと思いました。
匝瑳市飯塚の開畑地区は、文字通り40年前に山を切り拓いた所です。
当時は希望の光でしたが、今は耕作放棄地に悩んでいます。
でも、ちょっと北海道を思わせるような、自然に囲まれ太陽が降り注ぐ、素晴らしい場所です。
畑の上で発電し、下で作物をつくる。太陽の恵みを両方で活用できる「ソーラーシェアリング」は
農業と地域再生の切り札です。地面に太陽光パネルを敷きつめる通常のメガソーラーではないから
自然にも溶け込み、市民発電所なので一人ひとりの思いと力がつながります。
パネル1枚から参加できる市民発電所。みなさまのご参加を、心よりお待ちしております。
椿 茂雄（弊社共同代表取締役）

地域にも環境にも配慮した市民共同発電所です!

環境配慮

環境団体から生まれた会社だからこそ、ただ単に自然エネルギーによる発電所をつくるのではなく、『食』『農』『生態系』なども配慮して運営を行なっていきます

市民発電

ドイツでは市民が自分たちで作る市民発電所が全体の60％を占めています。日本でも市民の誰もがその恩恵を享受できる市民発電所が増えることを願っています

地域と共に

災害時や停電時には、地域の皆様に無償で電気の供給を行います。また地域の農業生産法人『Three little birds』と連携し、有機農業の推進と雇用促進に取り組んでいます

契約について

【申込方法】

①購入申込書にソーラーパネルの購入枚数ご記入と、ソーラーパネルの賃貸借契約期間（12年、15年、19年）の中から1つ選択のうえ、本人確認書類（運転免許証・健康保険証・住民票のいずれかの写し）を同封してご送付願います。
②お申し込みにつきましては先着順にて受付いたします。申込み締切り後に購入申込みをいただいた方には弊社からご連絡差し上げます。なお、弊社において購入申込書及び本人確認書類を精査した結果、購入申込みをお断りする場合がございますので、あしからずご了承ください。また、お預かりいたしました購入申込書及び本人確認書類につきましてはお返ししかねます。

【賃貸借契約】

①申込内定者様には、弊社から賃貸借契約書をお送りいたします。賃貸借契約書を受領されましたら、その内容を十分ご検討下さい。その上で、賃貸借の条件にご納得頂いた方のみ、賃貸借契約書に住所・氏名等の必要事項を自署し、ご捺印いただいたものを弊社が指定する日までにご返送いただき、併せて申込証拠金をお支払いください。
②賃貸借契約書の返送及び申込証拠金のお支払いは、弊社が指定する日までに終えてくださいますようお願いいたします（必着）。万一、当該期日までに賃貸借契約書の返送及び申込証拠金のお支払いを弊社で確認できない場合、お申込みを撤回したものとみなすことがあります。
③弊社にて支払期限までに申込証拠金全額のお支払いを確認いたしましたら、ご送付いただきました賃貸借契約書に捺印し、賃貸借契約書1部と、ご購入されたソーラーパネルの番号を記載いたしました借受証を返送いたします。

【代金支払】

弊社が指定する日までに、申込証拠金として、ソーラーパネル1枚当り38,500円（35,000円＋消費税10％）を指定の金融機関口座にお振込み願います。（口座につきましてはお申込み内定者様に別途お知らせいたします）　※なお、ソーラーパネルの申込証拠金につきましては、売買契約成立と同時にソーラーパネルの売買代金に充当します。

【契約成立】

別途締結するソーラーパネルの賃貸借契約の成立と同時に、ソーラーパネルの売買契約も成立するものとします。申込証拠金が売買代金に充当された日にソーラーパネルが設置されている位置においてお引き渡しとなります。　購入申込書に記載された事項、本人確認書類に記載された事項その他の個人情報につきましては、法令に従って厳重に管理し、不正利用や関係者以外への漏洩を防止する対策を講じます。

（問い合わせ先）市民エネルギーちば株式会社　https://www.energy-chiba.com/　〒289-2106 千葉県匝瑳市飯塚1037-1　TEL 0479-85-6760　FAX 0479-85-6765

パネルオーナー募集

パネルオーナー制度のしくみ （団体、グループ、法人での購入も可能です）

■ソーラーパネルを1枚からご購入いただけます。

■ご購入いただいたソーラーパネルにつきまして、パネルオーナー様には、毎年固定の賃料をお支払いいたします。
（資料につきましては、下記の表Aをご参照ください）

■今回販売するソーラーパネルの賃貸借期間は12年、15年、19年の3コースです。
それぞれ契約期間終了後、弊社にてパネルオーナー様からソーラーパネルを買取させていただきます。
（弊社の買取価格につきましては、下記の表Bをご参照ください）

■ソーラーパネルの破損等に対する備えとして、弊社にて損害保険に加入いたします。

オーナー様の収支シミュレーション

弊社は、オーナー様にソーラーパネル（以下、パネルと省略）を1枚35,000円（消費税別）でお売りした上で、オーナー様からパネルを下記の■表Aの賃料（消費税別）で借り受けます。

オーナー様は、パネルの賃貸借契約期間が過ぎた時点で、下記の■表Bの固定価格で弊社にパネルを売却していただきます。

契約期間終了後、パネルを売却すると■オーナー様の収入は下記のようになります。

■表A / ソーラーパネル1枚当たりの賃料（消費税別）

賃貸借期間	年間賃料（円）	賃料総額（円）
12年	2,000円	24,000円
15年	2,200円	33,000円
19年	2,500円	47,500円

※（年）：申込日からの年数

■表B / ソーラーパネル1枚当たりの買取価格（消費税別）

経過年数	買取価格（円）
12年経過時	16,000円
15年経過時	10,000円
19年経過時	500円

※（年）：申込日からの年数

契約期間終了後、パネルを売却するとオーナー様の収入は右のようになります。

■オーナー様の収入例（契約終了後、パネル1枚当たり、消費税別）

賃貸借期間	購入時（円）	賃料総額+売却総額（円）	購入時よりの増加額
12年	35,000円	40,000円	5,000円　14.29%増（年1.19%）
15年	35,000円	43,000円	8,000円　22.85%増（年1.52%）
19年	35,000円	48,000円	13,000円　37.14%増（年1.95%）

3つの安心

運用実績があります。2014年、2016年募集（いずれも完売）。
年1回のオーナー様への報告を含め、安定した運用を続けております。

25年間のパネル製品保証

今回ご購入いただくすべてのパネルには、メーカーによる25年間の製品保証がついております。不具合が生じた場合でも、代替パネルと速やかに無料交換いたします

損害保険に加入

メーカー保証とは別に国内大手の損害保険に加入しております。万が一事故などが発生した場合でも、パネルオーナー様のご負担は一切発生しません

名義変更も可能

発行する「借受証」が相続対象となります。名義変更の手続きなどを行うことにより、パネルオーナー様の引き継ぎが可能な仕組みとなっております

Solar Sharing Company

MIN×ENE

みんエネ

市民エネルギーちば株式会社

当社は、千葉県内の環境や自然エネルギーに関わる複数の6団体9名の有志により、
ソーラーシェアリング（＝営農型太陽光発電）による
市民発電所設立に特化した法人として2014年7月に創業しました。

事業内容

再生可能エネルギーによる発電および売電事業

1. ソーラーシェアリングに特化した自社発電事業（DC/2MW・AC/1.7MW/子会社含）
2. ソーラーシェアリングに関するシステム及び設備の販売、施工、管理、運営、リース及びコンサルタント業務
3. ソーラーシェアリングに関する機器・システムの開発、オリジナル部品製造販売
4. ソーラーシェアリングに関連した事項に関するイベント、セミナーなどの企画・講師派遣及び運営、技術移転講習＆インターン受入れ

COMPANY PROFILE

■会社名	市民エネルギーちば株式会社（2019年7月1日に合同会社から株式会社へ社名変更）
■設立	2014年7月2日
■代表取締役	代表取締役　東 光弘（ひがし みつひろ）　共同代表取締役　椿 茂雄（つばき しげお）
■資本金	1,000万円（設立時資本金90万円）
■従業員数	13名（パート、アルバイト、専属契約スタッフ含む）
■所在地	〒289－2106　千葉県匝瑳市飯塚1037－1
■電話／Fax	0479-85-6760／0479-85-6765
■CSR活動	◇ソーラーシェアリング収穫祭 実行委員会 事務局　◇豊和村つくり協議会 運営参加 ◇アースデイちば 実行委員会 運営サポート

www.energy-chiba.com

オリジナル動画サイト